

少年少女世界伝記全集

ファール

小林清之介



主婦の友社版

少年少女世界伝記全集 12

ファール

	小 林 清 之 介
	ファール 主婦の友社 昭和52年(1977)11月30日発行 162p 22cm 〔分類〕909

筆 者 小林清之介
 発 行 者 石川晴彦
 印刷・製本 凸版印刷株式会社
 定 価 480円
 発 行 所 株式会社 主婦の友社
 東京都千代田区神田駿河台1-6
 郵便番号 101 振替 東京2-180番
 電話 東京(03)294-1111(大代表)

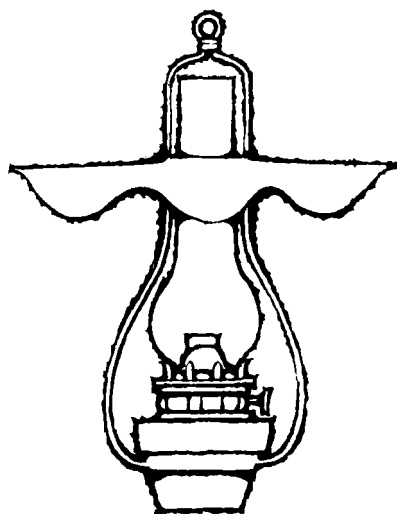
©1977 落丁・乱丁はおとりかえします。 著者との話しあいにより検印廃止。

少年少女世界伝記全集

ファール

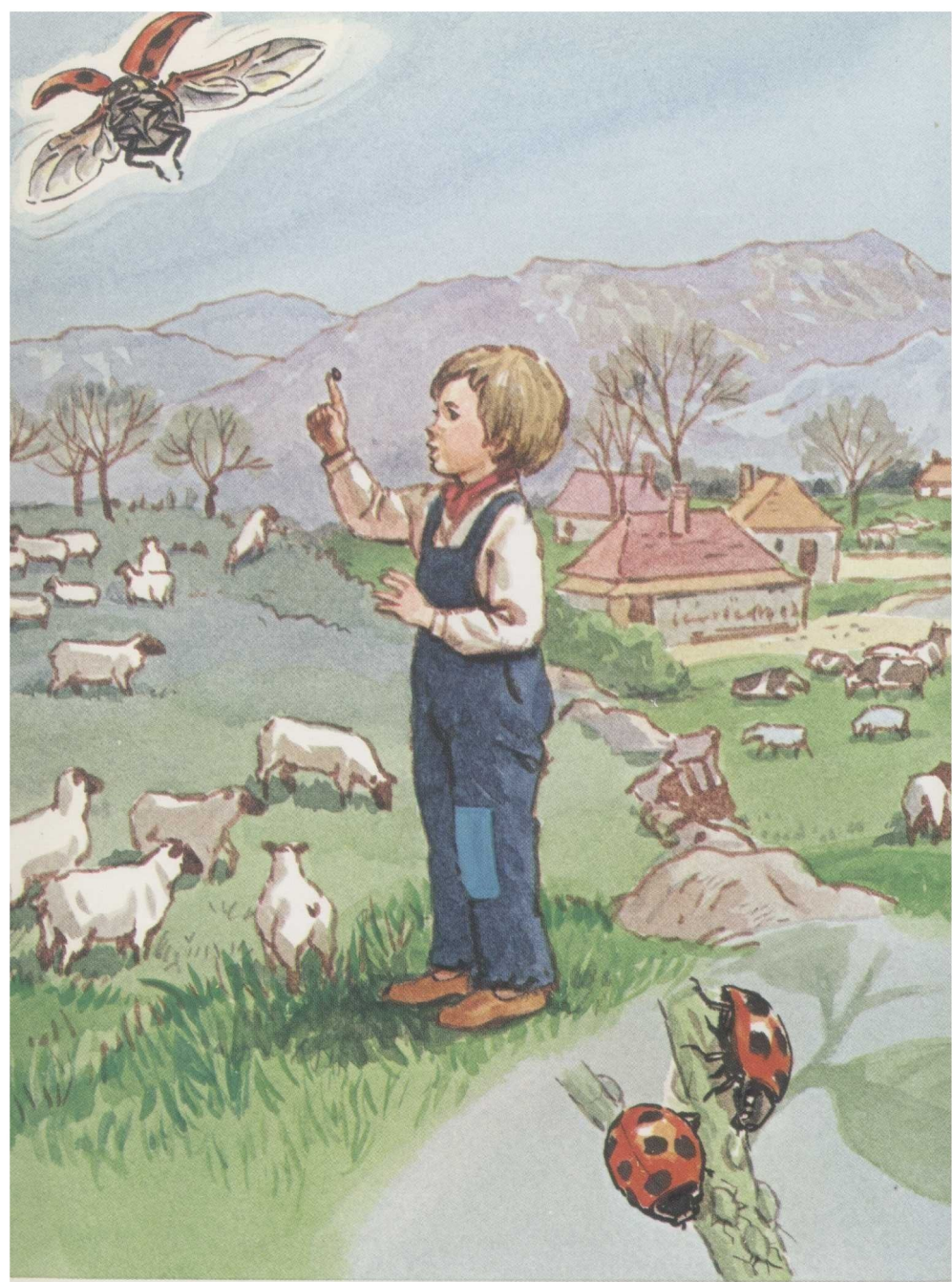
文・小林清之介

絵・木川 秀雄



主婦の友社版

デザイン 駒宮録郎
装丁



アンリは、今、草の上で、テントウムシをつかまえました。
赤い羽に、黒いぼつぼつをつけた、かわいいテント
此为试读, 需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com

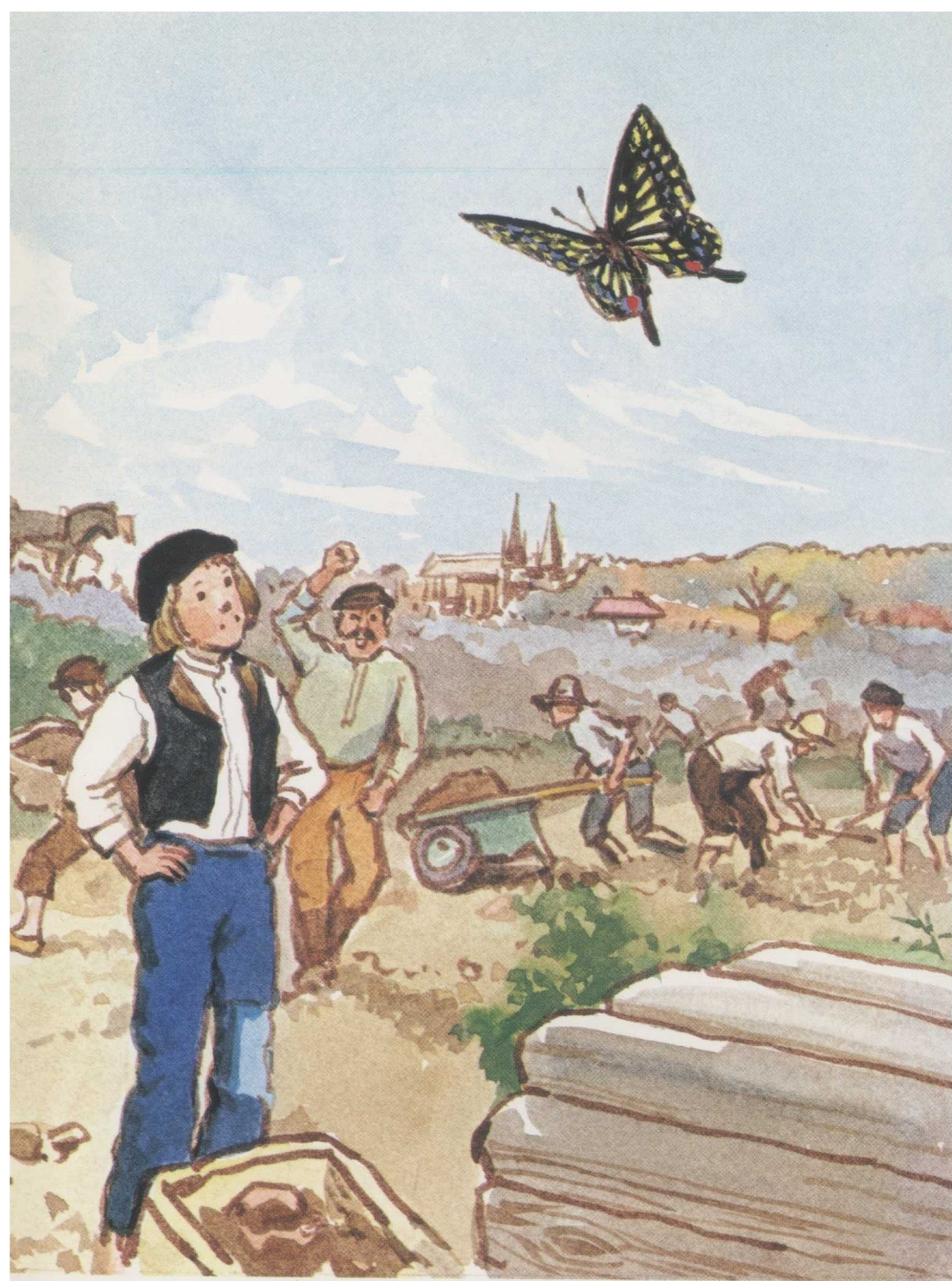




ドアが開いて、大勢のお客さんたちが、教室にはいって
来ました。子どもたちと、ブタと、ニワトリがいりまじ



アンリは、ひなたちを、ぼうで^お追^ない立^たてながら、^{むら}村はずれの^{おお}大きな^{ぬま}沼へ^で出^でかけました。そこには、アヒルの^{だい}大^{だい}す



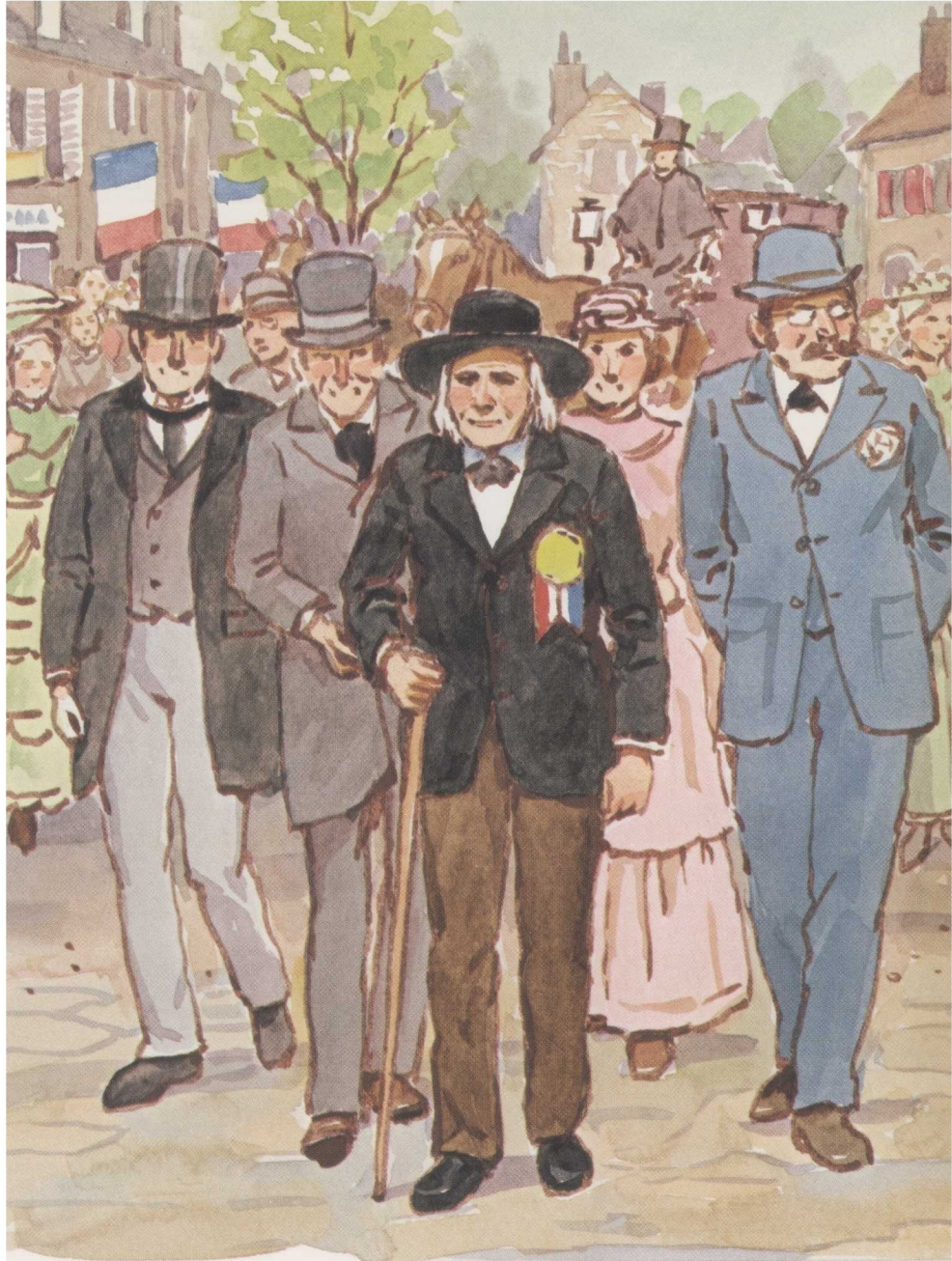
きれいなアゲハチョウが、ひらひら、目の^{まえ}を^{よこぎ}横切って
行きました。アンリは、古い^{ふる}友^{とも}だちに^{であ}出会ったような^き気



あせ
汗だくになって、おなじ仕事をつづけました。



ゾウムシは、もう、死んだように、動きません。ハチが、
はやくも、ちゅうしやばり注射針をうちこんであるのです。



ファーブルのこれまでの仕事^{しごと}がみとめられ、フランスで、
一番^{ばんめい}名^よ誉のあるくんしょうをもらいました。

みなさんへ

アンリ・ファールは、「こん虫のおじさん」としてよく知られています。こん虫の観察を三十年もつづけて、『こん虫記』というりっぱな本を、書いたのです。いまなら、こん虫をしらべる人は大ぜいいます。でも、いまから百年くらい前、多くの人は、「なんだ虫けらなんか。」といって、目もくれなかったのです。そんな時代に、こん虫の生活のおもしろさに目をつけたファールは、とても考えの新しい人でした。

ファールは、お金持ちの家に生まれて、いい学校を出て、らくらくと研究生活をつづけたわけではありません。反対に、これ以上はないというくらい、まずしい家に生まれて、ひどい苦勞をしながら、勉強しました。そして、こん虫の研究という仕事にめぐりあうと、ねばり強くがんばって、だれよりもすぐれた仕事を残しました。この本は、もっとも苦勞の多かった、ファールの少年時代、青年時代を中心にして書きました。

小林清之介

もくじ

山の村 やまむら に生まれて	15
-------------------------------	----

目で見るのか、口 くち で見るのか	15
----------------------------------	----

ふしぎな声 こゑ の正体 しょうたい	21
--	----

おばあさんのお話 はなし	29
-----------------------------	----

フタがはいって来る学校 がっこう	35
---------------------------------	----

ポケットのカタツムリ	42
------------	----

貧しい暮 く らしのなかで	51
------------------------------	----

動物 どうぶつ の絵 え とボダイジュ	51
---	----

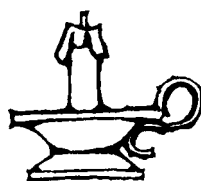
ダイヤモンドと金 きん	59
----------------------------	----

赤い服 あかふく 、赤いぼうし	67
--------------------------------	----

ファール先生 せんせい	79
----------------------------	----

詩集とブドウ	79
「だめな生徒」ではない	87
生物学をやりなさい	95
熱病にとりつかれる	103
こん虫の研究をしよう	111
これこそ一生の仕事だ	111
注射のなぞ	118
デュファールの手紙	126
ヤマネコの目め	134
アカネの研究	141
『こん虫記』の出版	147
あとがき	156
年表	160

山の村に生まれて



目で見るのか、口で見るのか

ここは、マラバル。南フランスの山のなかの村です。ヒツジが、あちらに五ひき、こちらに七ひきというようにかたまつて、草をたべています。ところどころに、ぽつん、ぽつんとウシもいます。まいごにならないように、首にすずがつけてありま